

図表1 外貨建て個人年金の主なタイプと対応するニーズ

商品タイプ	商品概要	対応する顧客ニーズ
変額 年金原資確定部分付き 変額個人年金保険 (通貨指定型)	通貨・運用期間・最低保証を選択。定額部分で満期時の外貨ベースの最低保証をし、変額部分で収益を狙う。円ベースで設定した目標金額に達した場合は自動的に運用成果を確保	<ul style="list-style-type: none"> •ある程度の安全性を確保しながら、それなりの収益も追求したい •目標に達したら運用成果を確保したい
外貨建て 変額個人年金保険	外貨建ての特別勘定（ファンド）で運用。円ベースで設定した目標金額に達した場合はすぐに受け取ることも。外貨ベースの一時払い保険料相当額を最低保証	<ul style="list-style-type: none"> •外貨建ての特別勘定で収益を追求したい •目標を達成したら運用成果を確保したい •ある程度の安全性は確保したい
定額 通貨指定型 個人年金保険 (受取りタイプ)	契約時に外貨ベースの年金額と年金受取総額が確定する。20～40年などの期間、外貨で年金を受け取る	<ul style="list-style-type: none"> •外貨ベースでもある程度決まった年金を確実に受け取りたい •多少の収益は期待したい
通貨指定型 個人年金保険 (運用タイプ)	運用する通貨・期間を選択。円ベースで設定した目標金額に達した場合は自動的に運用成果を確保する。目標に達しなくても契約時に確定した外貨ベースの年金原資は最低保証	<ul style="list-style-type: none"> •ある程度の年金額は確実に受け取りたい •円建てよりも高い利回りを期待したい •目標に達したら運用成果を確保したい
外貨建て 定額個人年金保険 (終身タイプ)	外貨ベースの年金原資110～130%などを最低保証し、外貨建ての年金額を一生受け取れる	<ul style="list-style-type: none"> •一生ある程度の年金額を受け取りたい •ある程度の安全性を確保しながら、利回りも期待したい

お客様のニーズに合った タイプの保険商品を提案しよう

外貨建ての個人年金・終身保険の主な商品のタイプを挙げ、それぞれどんなニーズに対応しているのかを解説する。

菱田 雅生 ライフアセットコンサルティング株式会社 CFP®

外貨建て個人年金保険

外貨建ての個人年金保険は近年、様々なタイプが登場している。個別の商品を一つひとつ見ていくと、それぞれに工夫が見られ、細かな部分が異なっている。しかし、大きく異なっている部分に着目すると、図表1のように分類できるだろう。

まずは、「変額」と「定額」に大別できる。変額個人年金保険は「投資型年金」などと呼ばれることもあるが、基本は変額保険なので、集められた資金は一般勘定ではなく特別勘定（ファンド）で運用される。その運用成果を年金の形で受け取っていくのが変額個人年金保険である。

一方、定額個人年金保険は、一定の利回りを確保すべく安定的な運用が行われ、契約時点で決めた定額の年金を受け取っていく。変額が積極的な運用も可能で、定額は安全運用が行われると理解しやすいだろう。ただし、いずれも外

貨建てであるため、円ベースでの年金額が契約時点で保証されているわけではないのが通常である。それから、保険料の支払方法として、「一時払い」と「月払い」などに分類できる。外貨建ての保険は、総じて余裕資金の運用目的で利用する人を想定しているため

か、一時払いのほうが多くなっている。若い世代が、通貨分散を考へながらリタイア後に定期的にお金を受け取る仕組みを作りたいと考える場合は、月払いタイプなどで少額から利用できる。多くの銀行等の商品ラインナップを見ると、若い世代に対しては円建ての定額個人年金保険へと誘導したい雰囲気を感じられるが、基本的に若い世代ほど将来に備えた通貨分散を考えるべきである。

評価益を享受し損ねない
仕組みの商品が台頭

据置期間1年などですぐに受け

取ることを想定している商品と、一定期間運用し、増やしてから受け取ることを想定している商品に大別することもできる。前者は、近々リタイアするか、すでにリタイアしており、手元にある資金を運用しながらすぐに取り崩していきたいと考えている顧客向けのもの。後者は、すぐに受け取りたいわけではなく、運用をして、その成果を将来受け取りたいと考えている顧客向けのものである。

最近の外貨建て個人年金保険に多いのが、円ベースで目標金額を設定し、運用成果が目標に達したら、その時点で円ベースでの受取年金額を最低保証したり受取りを開始したりできるタイプである。

一般の投資信託などでの資産運用を行っている場合、評価益が出ている状態になったにもかかわらず、結局下がってしまうことなどが往々にしてある。そのような事態に陥る心配をなくするため、こうした仕組みが作られているのだ。さらに、多くの外貨建て個人年金保険は、外貨ベースの払込保険料相当額、またはそれに一定のプラ

スアルファをした金額を含めた最低保証が行われている。

したがって、顧客ニーズとして考えられる「それなりの安全性」「それなりの収益性」「何もしないでいい手軽さ」などを満たす商品として、外貨建て個人年金保険の魅力がクローズアップされてくる。商品ごとの細かな違いについては、顧客の細かなニーズに合っているかどうかを検討し、提案していくべきである。

ちなみに、通貨分散が最大のニーズである場合は、欧米諸国の国債を直接買う方法や投資信託、ETFなどを買う方法など、お客様のコスト負担を大きく減らす方法があることも知っておくべきである。定期的な資金を受け取ることができるとい個人年金保険の最大のメリットと、通貨分散を同時に行いたいなどのニーズがお客様にあつて、コスト負担も含めた商品内容をきちんと理解してもらったうえで提案したい。販売側の収益だけでなく、お客様が得られるメリットとのバランスを考えることが重要である。